

○日露戦役實戦談と天文¹—(記念品陳列)— 水野副會長 最後に副會長水野氏は講演に先だつて御出品の日露戦役記念品に就て一つ一つ説明をされる、「夢記」と表紙に書かれたノートがあり、不審を抱いてみた處、戦場で毎夜見られた夢の記録であつたり、戦場で幾何や代數の勉強をやられたノートがあつたりして並んで説明を聞く者の間に笑聲が擧る。次に壇上に立たれ從軍中の思出話を初められる。内にも滿洲の寒さや從軍中の起床就床の時刻を記録され睡眠時間が十日間に三十數時間しか無かつた等科學者の精密振りを發揮される。話される内に三十年の昔に歸られて時の経過するのも忘れたかの様に次から次へと熱辯迸り、又その頃の戦争の事や參謀部の知識を與へられた。

かくて二十二時三十分來會者に多大の満足と與へて大盛會裡に三月例會は閉會された。會場より外に出れば東南の空に火星が赤い色を見せてシーズンの王者此處にありと輝いてゐた。

(三月二十一日)

變光星課會議

近來急速な發展を示して來た當課は、その使命を一層效果的にする爲め三月二十三日夜京大樂友會館にて第一回の會合を行つた。參集は山本會長、小山課長、今津、高井、佃、鈴木、井澤、西村、木邊の課員合計九名であつた。

19時、小山課長の司會に始まり、先づ課員出席者について簡単に紹介、次いで出席者の簡単な自己紹介と今後の希望を述べ、山本會長の「歴史的に見た日本に於ける變光星觀測」及「今後の方針に對する意見」を述べられ、いよいよ本會議に入り、今後の觀測方針、觀測者の増加案、及その方法、觀測用星圖、報告、發表の仕方、豫報、觀測者相互間に於ける報知等に付き約二時間御茶も飲まぬ熱心さであつた。21時半一通り終つて冷えた紅茶に砂糖を投げ込み、紀念の寫眞を撮影、其後は各自の手柄話し、失敗話し、ビツクリ話し等平和いだ氣分の内に23時に散會した。主な決定事項は

1. この様な會合を年々一回位開く事。
2. 天界に素人の興味を引く變光星の記事を掲載して大いに觀測熱をアフル様にする事。
3. 今回の新星に特殊の色硝子を二三併用して觀測して見る事等であつた。

(以上)